

歴史のお勉強 その2 ハドリアヌスの長城とは？

中国で有名な「万里の長城」を築いたのは秦の始皇帝だが、それは紀元前3世紀のことだ(但し、現存する万里の長城の大部分は明代のもの)。しかして、あなたはその約400年後にイギリスに建設されたハドリアヌスの長城を知ってる？

ハドリアヌスは第14代のローマ帝国皇帝(在位117~138年)だが、彼が紀元122年から約10年の歳月をかけて今のイギリスに築いたのがハドリアヌスの長城。これは当時ヨーロッパ大陸での北進を続け、現在のイギリスまで領土を拡大していたローマ帝国が、原住民のブリトン人の南下を防ぐためにイングランド北部、スコットランドとの境界線に東西約118kmにわたって築いた長城だ。これによって、当時未開の地だったイギリスは、現在の朝鮮半島と同じように完全に南北に分断されていたわけだ。本作を鑑賞するについては、まずこちらのお勉強をしっかりと。



『第九軍団のワシ』

2012年3月24日(土)より渋谷ユーロスペースにてロードショー 他全国順次公開

2010 Focus Features LLC. All Rights Reserved.

『ローマ人の物語』は大変だが、こちらなら・・・

『第九軍団のワシ』という邦題を見ても何のことかサッパリわからないが、原題は『THE EAGLE』と単純。EAGLEとは鷲のことだが、ここでいうワシとはローマ軍の名誉の象徴である黄金のワシのことだ。プレスシートによれば、「数年にわたりエブラカム(現在のイギリス北部ヨーク)に駐在した第九軍団は、西暦120年を境に歴史上の記録から突然姿を消した。スコットランドを目指して北に侵攻したきり戻ることがなかったとされている」らしい。また、「今日の歴史学者の間では、第九軍団の行方についてイギリ

ス北部で忽然と消えたという説と、どこか別の場所に配置されただけだという説の2つに意見が分かれているが、どちらにせよ5000名の大軍が消息を絶ったのは正真正銘の歴史的事実らしい。

そんな「消えた第九軍団の謎」をもとに、少年少女向けの歴史小説を書いたのは、イギリスを代表する女流児童文学者であるローズマリ・サトクリフ。イタリア在住の日本人作家塩野七生が書いた膨大な古代ローマの歴史小説である『ローマ人の物語』は、ハードカバーで15冊、文庫本で43冊という超大作。したがって、それにチャレンジするのは大変だが、「小学4年生～一般」を対象としたサトクリフの『第九軍団のワシ』は全1巻だけだから、読む気になれば簡単。原作には映画では一切省略されている「恋愛物語」もあるらしいから、本作で強烈なインパクトを受けた人は是非原作にもチャレンジしてみても・・・？



『第九軍団のワシ』

2012年3月24日(土)より渋谷ユーススペースにてロードショー 他全国順次公開

2010 Focus Features LLC. All Rights Reserved.

あれから20年。成長したマーカスは？

「消えた第九軍団の謎」や「ハドリアヌスの長城」を説明するナレーションをひととおり終えた後、映画はブリテン島(イングランド)の南西部にある小さな砦に「百人隊長」として赴任してくるマーカス(チャニング・テイタム)の姿を映し出す。これは、「あれから20年後」のこと。「黄金のワシを奪われた不名誉な第九軍団長」の汚名を着せられた父親の名誉回復のため、マーカスはあえて初任地をこんな辺境の地に選んだわけだ。明治初期の日本でいえば、これはさしずめアイヌ民族たちが住む最北端の蝦夷の地に赴くようなものだが、同じ未開の地でもブリテン島ではハドリアヌスの長城を挟んで生きるか死ぬかの抗争をくり返しているのだから、その過酷さは全然違うはず。密林の中を船で任地に向かうマーカスたちの姿を見ていると、その緊張感がひしひしと伝わってくる。

砦の隊長として着任したマーカスは、当初こそ「あの第九軍団長の息子か！」とバカにされていたが、その研ぎ澄まされた感性によって敵の攻撃を予感し、これを撃退させた武勲によって、たちまち砦の兵士からの尊敬を集めることに。しかし翌朝、偵察隊を捕虜にしたアザラシ族が仕掛けてきた真っ正面からの攻撃に対して果敢に戦ったマ



『第九軍団のワシ』

2012年3月24日(土)より渋谷ユーロスペースにてロードショー 他全国順次公開
2010 Focus Features LLC. All Rights Reserved.

ーカスは、左足に重傷を負うことに。この戦闘シーンでは、『300 スリー・ハンドレッド』(07年)(『シネマルーム15』51頁参照)でも観た亀甲陣形弾法に注目だが、その後ストーリーは意外な方向に転換していくから、それにご注意。

テーマは、黄金のワシを取り戻す旅！

ローマに「剣闘士」の制度があったことは古くは『スパルタカス』(60年) 新しく(?)は『グラディエーター』(00年)などでよく知られているが、「黄金のワシを捜す旅」のパートナーになる剣闘士の奴隷エスカ(ジェイミー・ベル)はかなり小柄だから、これで剣闘士が務まるの?とってしまう。そのうえ、その顔見せ場面ではいかにも強そうな相手と全然戦おうとしないから、これでは剣闘士として失格で、観客もみんな興奮めに…。ケヴィン・マクドナルド監督がマーカスとエスカの出会いをなぜそんなシークエンスにしたのかはわからないが、これは多分原作のまま?マーカスによって命を救われたエスカは、以降マーカスを「命の恩人」として忠誠を誓うことになるのだが、後に意外にもエスカはローマ軍と戦ったブリガンテス軍の隊長の息子であったことが明かされるから、その不思議な縁に注目!

負傷が癒えたマーカスがエスカと共に再び砦に戻ってきた時、兵士たちは何かといぶかったが、黄金のワシを取り戻すためにエスカと2人で長城を越えて北方に進むと聞いてビックリ。だって、今まで砦を越えて北方に行った者で、帰ってきた者はいないのだから。幸いエスカはアザラシ族の言葉もわかるから道案内人兼通訳には最適だが、もともとはローマを憎んでいるブリタニア人の奴隷。はたして、そんな男を信用できるの?マーカスは「裏切られたら仕方ない」と割り切っていたが、さて2人を待ち受ける過酷な旅とは?

新たに登場する2人のキャラは?

マーカスとエスカによる黄金のワシを捜す旅は、エスカはともかくマーカスにとっては

全く秘境への旅だし、それは私たち観客も同じ。あの当時のローマ軍がすばらしい軍備と厳格な規律を持っていたことは明らかだが、それと対照的なアザラシ族をはじめとする未開の地の部族たちの生態は？その代表は、エスカがローマ軍と戦ったブリガンテス軍隊長の息子だったと知って厚くもてなすアザラシ族の王子シール（タハール・ラヒム）だが、まずはその奇妙なメーキャップぶりに注目。また、マーカスとエスカが途中で出会うのが、首に兜を締めた跡が残っていることで第九軍団の生き残りであることがわかる男グアーン（マーク・ストロング）だが、彼はマーカスに対してどこまで真実を語っているの？1人の知人も何の情報もないまま、未開の地へ黄金のワシを捜す旅に出るといのはもともとムチャな話だが、シール王子とグアーンという新たなキャラクターの登場によって、マーカスとエスカは徐々に黄金のワシに近づいていくことに。

シール王子との出会いの中で、マーカスとエスカの主人VS奴隷の立場が逆転してしまうのはストーリー形成上よくある話だが、立場を替えた2人は黄金のワシを発見した後、いかなる対応を？それが後半からクライマックスにかけての本作のポイントになるから、それはあなた自身の目でしっかりと。



『第九軍団のワシ』

2012年3月24日(土)より渋谷ユーロスペースにてロードショー 他全国順次公開
2010 Focus Features LLC. All Rights Reserved.

「名誉」が大切な時代なればこそ・・・

1人でもハドリアヌスの長城を越えて黄金のワシを探しに行くというマーカスの決断は私の目にはかなり無謀に見えるが、その動機はあくまで黄金のワシを捜し出してローマに持ち帰ると共に父親の最後の姿を明らかにすることによりその不名誉を挽回したいということ。あの時代に生きるローマの若手軍人にとっては、自分の生死よりも「名誉」の方が重要だったわけだ。追跡してきたシール王子率いるアザラシ族と、黄金のワシを持つマーカスの下に結集した第九軍団の生き残りたちの対決がクライマックスになるが、そのキーワードもすべて「名誉」のため。今の時代には失われてしまったそんな価値観が本作を観ているといかにも当然で、心からそれを応援したくなってから不思議なものだ。

本作はしっかりした時代考証だけでも十分値打ちがあるから、あの時代の勉強をし、かつあの時代の雰囲気にとっぷり浸る中で「名誉」というキーワードを考えながら、少年少女向け歴史小説の映像をしっかりと楽しみたい。

2012(平成24)年2月29日記